

3. 試算に用いた浸水想定域

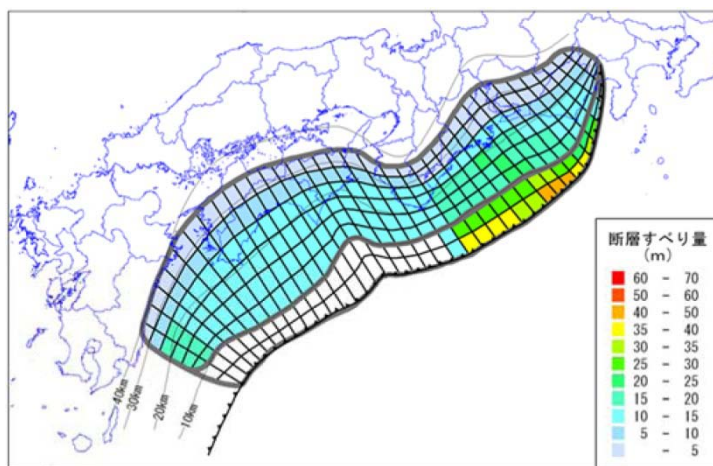
「内閣府モデル検討会」の推計において、特に愛知県において津波高が高くなると想定された検討ケース（ケース①、⑥、⑦、⑨・図2-1）での浸水想定域（図2-2）

(1) 津波断層モデルの設定

本試算に用いた「内閣府モデル検討会」各ケースの津波断層モデル及び計算条件を以下に示す。

【試算に用いた津波断層モデルと計算条件】

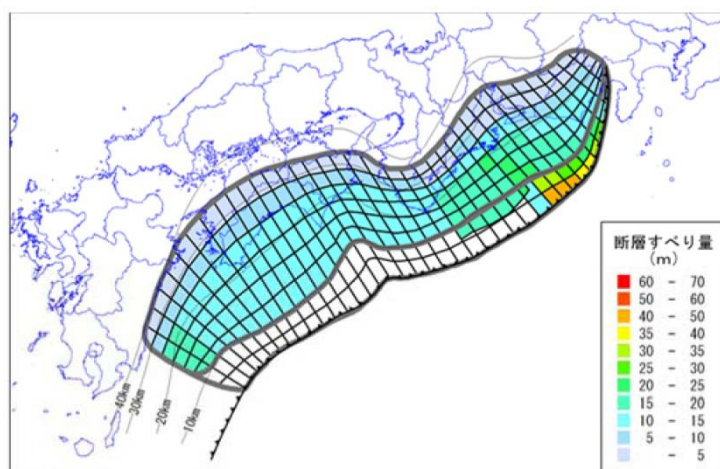
- ・ケース①：「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定
- ・ケース⑥：「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+（超大すべり域、分岐断層）」を設定
- ・ケース⑦：「紀伊半島沖」に「大すべり域+（超大すべり域、分岐断層）」を設定
- ・ケース⑨：「愛知県沖～三重県沖」と「室戸岬沖」に「大すべり域+超大すべり域」を2か所設定



【ケース① 駿河湾～紀伊半島沖に大すべり域を設定】

図2-1a：津波断層モデルのすべり量分布（津波ケース①）

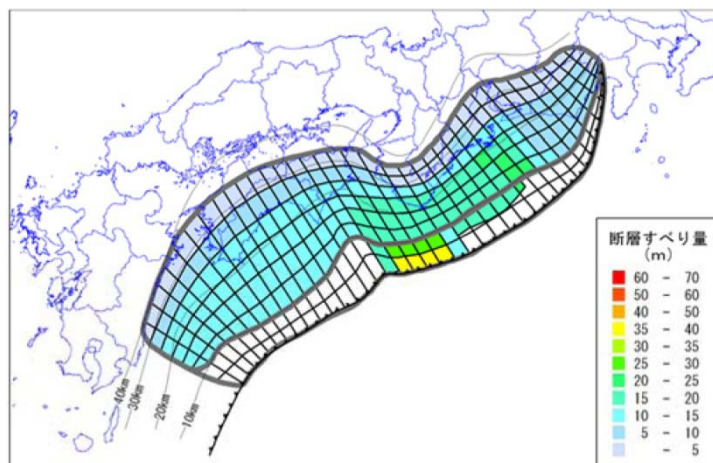
（内閣府モデル検討会（2012））



【ケース⑥ 駿河湾～紀伊半島沖に大すべり域+分岐断層】

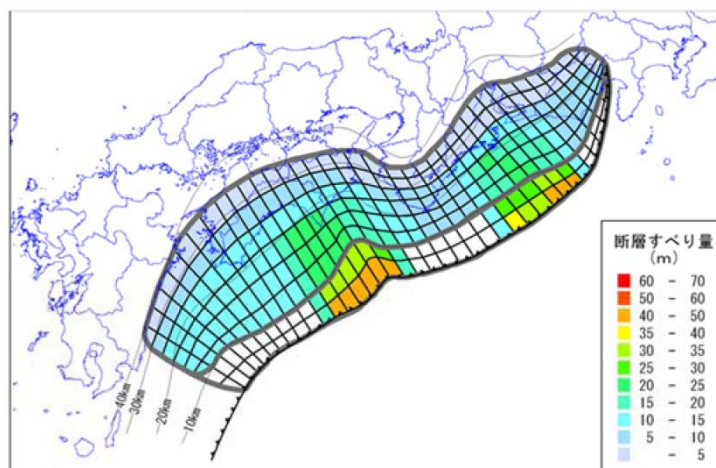
図2-1b：津波断層モデルのすべり量分布（津波ケース⑥）

（内閣府モデル検討会（2012））



【ケース⑦ 紀伊半島沖に大すべり域＋分岐断層】

図 2-1 c : 津波断層モデルのすべり量分布 (津波ケース⑦)
(内閣府モデル検討会 (2012))



【ケース⑨ 愛知県沖～三重県沖、室戸岬沖に大すべり域を設定】

図 2-1 d : 津波断層モデルのすべり量分布 (津波ケース⑨)
(内閣府モデル検討会 (2012))

計算条件は、以下のとおりである。

表 1 津波計算の計算条件一覧

項目		内閣府モデル検討会 (2012)
地殻変動量		考慮
初期潮位		名古屋港=1.27m 三河港=1.17m 池尻=1.22m
堤防条件	盛土構造物 (土堰堤)	地形データとして反映
	コンクリート構造物	津波が乗り越えたら破堤
樋門樋管・水門・陸閘		詳細不明
計算時間		6 時間～12 時間
河川における初期水位設定		無

(2) 浸水想定域

本県に到達する津波により、名古屋市、西尾市、豊橋市などの標高の低い地域で広い範囲の浸水が認められる。

愛知県全体の浸水面積

津波ケース	浸水面積（単位：ヘクタール）					
	浸水深 1cm 以上	浸水深 30cm 以上	浸水深 1m 以上	浸水深 2m 以上	浸水深 5m 以上	浸水深 10m 以上
ケース①	9,870	7,450	3,180	1,380	410	160
ケース⑥	8,150	5,990	2,420	940	350	150
ケース⑦	6,610	4,690	1,650	600	80	—
ケース⑨	8,840	6,660	2,880	1,220	340	90

(内閣府モデル検討会（2012）資料より作成)

津波ケース①

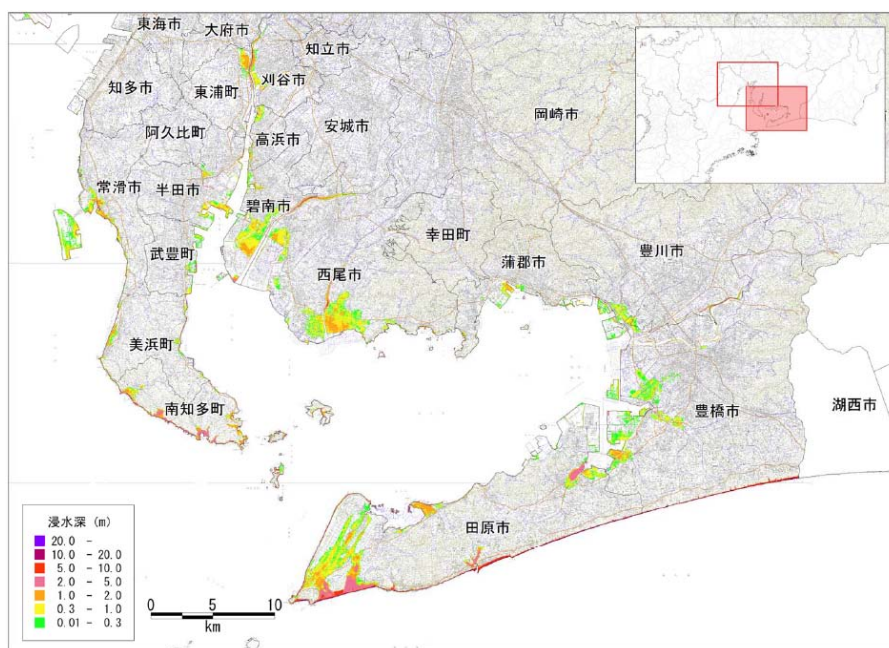
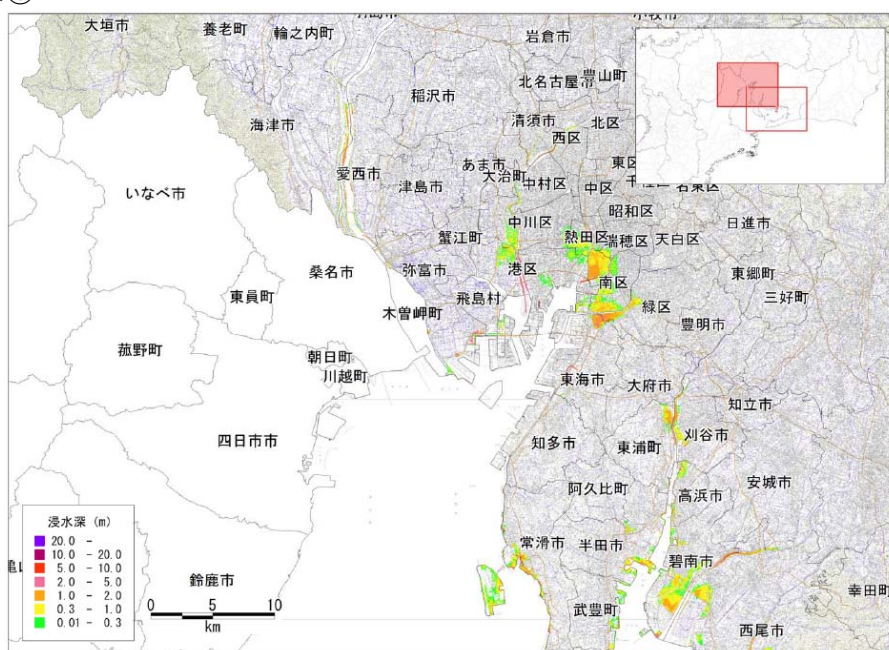


図 2-2：津波の浸水分布（津波ケース①）（内閣府モデル検討会（2012））

※津波ケース⑥、⑦、⑨については省略

なお、浸水想定域に関連して、内閣府においては、被害想定的前提としてはいないが、参考として、名古屋市周辺の浸水深（土堰堤なし、堤防なし）の浸水分布を提示している。

（下図参照）

今後の被害想定においては、このような本県の地域特性（海拔ゼロメートル地帯が広大である）をどのように評価していくかは、引き続き検討していく必要がある。

ケース① 内閣府 名古屋市周辺の浸水深（土堰堤なし・堤防なし）

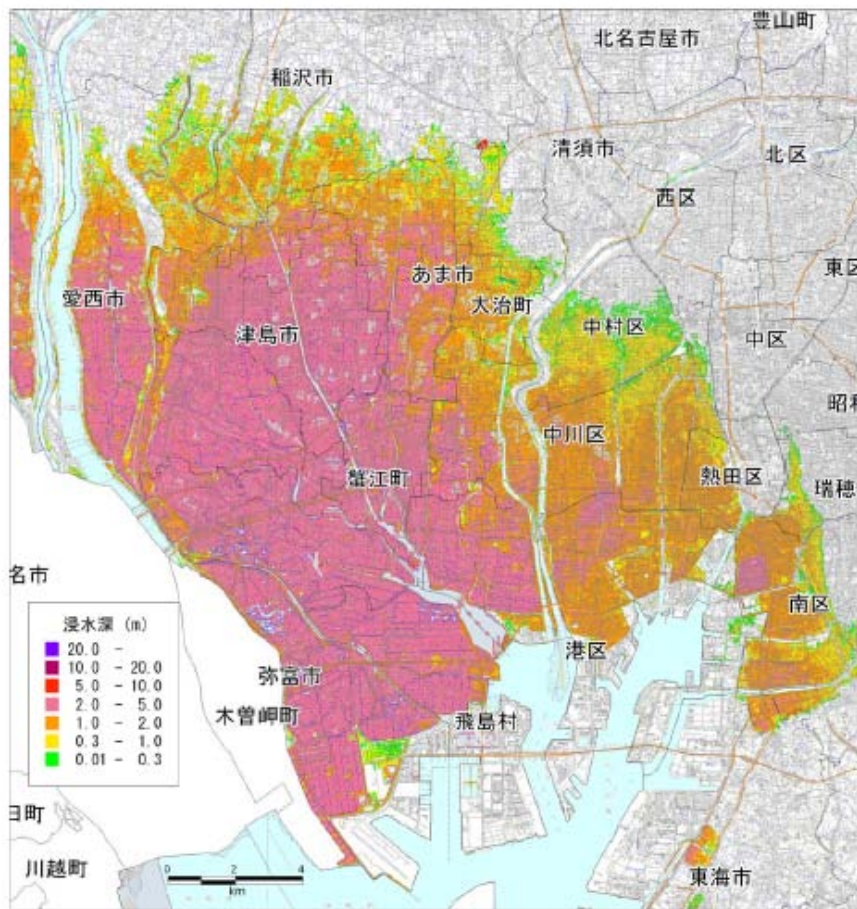


図 地震後、潮位により浸水する範囲(浸水分布) (満潮位相当 (=TP+1.27m))
【ケース①「駿河湾～紀伊半島沖」に大すべり域を設定、堤防条件:堤防なし・土堰堤なし】